

東鷲宮病院FAX通信



2017年（平成29年）10月号

～ 外科 ～

○外科チーム紹介

日頃諸先生方には貴重な症例をご紹介いただき誠にありがとうございます。今回、当院外科の近況をご報告いたします。

当科は平成28年から小野千尋外科部長、杉田久記外科医長が入职し、現在は安藤正幸副院長をトップに総勢3名の常勤医体制となっております。手術症例も徐々に増え、平成28年の実績として大腸疾患23例、胃十二指腸疾患13例、胆石26例等の手術を行いました。

○腹腔鏡下手術に力を入れています

以前から行ってきた腹腔鏡下胆嚢摘出術に加えて、平成27年3月から大腸癌、平成28年1月からは胃癌に対しても腹腔鏡下手術を導入しました。本年9月時点で大腸疾患25例、胃疾患11例に腹腔鏡下手術を施行しております。また、良性疾患では鼠経ヘルニア根治術や虫垂切除術等にも腹腔鏡下手術を行っています。今年度の実績では1月から9月までの胃大腸癌手術23例中13例 約57%と半数以上に腹腔鏡下手術を行い、概ね良好な結果を得ています。

写真下のように整容性にも十分配慮しています。

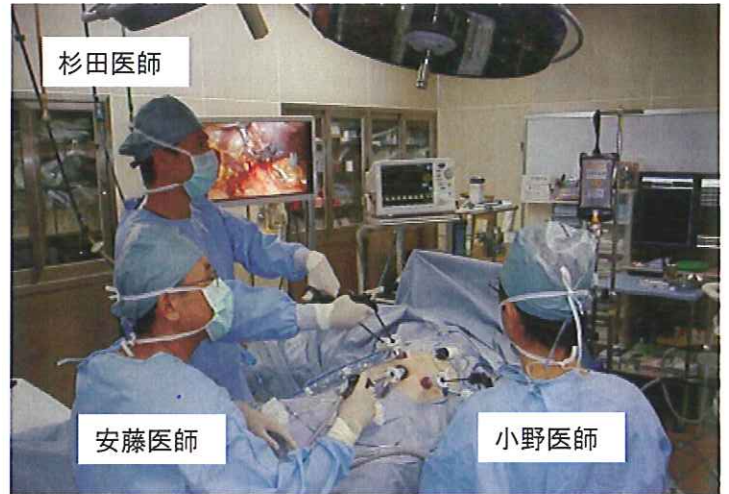
進行癌や手術既往のある症例または緊急手術など腹腔鏡手術の適応外となる症例もありますが、腹腔鏡手術をご希望される患者様がいらっしゃいましたら、ぜひ当科にご紹介ください。



直腸前方切除術後症例



胃全摘術後症例 傷はほとんど目立たない



内視鏡下手術中の外科チーム

○内視鏡治療に力を入れています

消化器内科も含めスタッフ全員内視鏡検査・治療に習熟しており、EMRやESDといった内視鏡治療や腹腔鏡内視鏡合同手術(LECS)も積極的に行っています。

一方、緊急症例に対しては、病状により消化管ステント・経肛門イレウス管を用いて待機手術を行う bridge to surgery も考慮しておりますので、ぜひご相談ください。



経肛門イレウス管挿入例



消化管ステントによりイレウス解除後手術を行った症例

以上、東鷲宮病院外科の近況をご報告させていただきました。スタッフの増員により今まで以上に緊急患者の対応も迅速に行えるようになりました。

今後も地域に密着した外科治療を行ってまいりますので、よろしくお願いたします。

外科 安藤正幸、小野千尋、杉田久記

